

2025年度 トコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2026/9/5

団体名		なごみ次世代応援隊		活動タイトル		子どもを慈しみ、子育てを楽しめる親を増やすための、つながり合える居場所づくり	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）						■活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)		当団体の実現したいビジョンは「子どもが親に愛され、地域の中で温かく支えられて育ち、自信を持って生きていける社会」である。その社会の実現のためには、親が子どもとの時間を愛おしいと思いながら子育てを楽しめるようになること、地域の中でたくさんの人が親子に関わる必要がある。日々の子育てで起こる悩みや疑問を気軽に相談できる人が近くにいる環境は、親の心を安定させ、子どもが安心して健やかに成長する環境であるといえる。それは親の孤立化を防ぎ、児童虐待の防止にも繋がる。				もちつき会 	
●団体の社会的役割（ミッション）		当団体の社会的役割は主に次の3つである。 1）子どもとの時間を楽しいと思える親が増えるよう、親子で楽しく参加できるイベントなど、親子が集える機会と場所を提供する。 2）親が安心してお産を迎え子育てを楽しめるよう、親子が交流し、仲間同士で深く繋がりが合える居場所を作る。 3）ひとり親のサポートをしている団体や行政、社会福祉協議会と連携することで、本当に支援を必要とする親や妊婦と繋がることができる機会を作る。県内で長年活動している開業助産師や保育士、町内の子育てに関わる団体、企業等の協力により、親や妊婦が困ったときにすぐ相談しやすい体制を整える。					
●団体の活動基盤		●望ましい人的資源：子育て相談の受け付けや広報、事務局の運営を担える常勤スタッフが複数名在籍し、団体の安定的な運営を担える人材として常に活躍していること。ボランティアが充分足りていること。子育て相談を受ける助産師等の人材との繋がりがりや、相談体制があること。 ●望ましい物的資源：事業で活用する拠点となる場所が町内にあり、おもちゃなどの物品が揃っていて、親子で楽しく過ごせる環境が整っていること。 ●望ましい活動資金：団体の裁量・工夫の余地の大きい自主財源（参加費・協賛・寄付）を十分に確保していること。 ●望ましい情報：町内の企業や団体、行政と連携し、支援を必要とする家庭が当団体の情報を得られるようにすること。団体スタッフのスキル向上が図られ、親のサポートを充分にできること。					
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			ROOMのわ 	
【1】親子イベント&交流会 ①おゆずり会を年2回開催。おゆずり品を持ち寄り交換しあった。子育て相談も実施。 ②もちつき会を1月に開催した（詳細は右の活動写真にて） ③竹筒ごはんとツリークライミング体験を4月に開催。地域のボランティアにも協力していただいた。家ではできない体験ができたことと喜ばれる方が多かった。 【2】ROOMのわ 親子同士の交流を深めるため、全6回の講座を通して、楽しく学びを共有したり、自分や子育てのことを語りあったりする会員制の親子の居場所づくりを行った。講座の間はキッズスペースを準備して、こどもの見守りもスタッフで行った。（詳細は右の写真にて） 【3】公式LINEでの子育てサポート 多忙な中、イベントへの参加が難しい方も繋がりをするため、公式LINEで情報配信や子育て相談の受付、フードパントリーを行った。町内のお店で使えるお得な割引クーポンや、和木町の子育て情報、役立つ情報を毎月配信。子育て相談会をイベントとも同時開催し、気軽に相談していただける雰囲気を作ることができた。			【1】親子イベント&交流会 ①開催「おゆずり会」2回実施「もちつき会」実施「竹筒ごはん」と木登り体験」実施 ②目標アウトカム「参加して良かった」「新たな繋がりが増えた」： 参加して良かった・とても良かった→毎回100% 繋がりが増えた→おゆずり会38%、もちつき会85%、竹筒ごはん87% 【2】会員制の学びと交流の場「ROOMのわ」 ①開催 6回実施 ②目標アウトカム「悩みを共有できる仲間ができた」「悩みや不安が軽減できた」： 仲間ができた（話を聴けた）→80%、悩みや不安軽減→60% 【3】公式LINEでの子育てサポート ①2025年9月～2026年8月 ②登録者数412名(38名増・目標達成) 子育て相談認知80%、子育て相談19件 【4】活動基盤の強化 ①スタッフ研修1回実施、振り返り会6回実施、当番スタッフ用の運営マニュアル作成 ②自分の役割に責任を持ち活動できた57%、目的を意識して活動できた85%				
■事業を通して得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題				
親子イベントやROOMのわの運営を、特定のスタッフだけが担うことなく、負担を分散させるため、当番制で運営できるスキルマニュアルを昨年の活動を参考にして改善した。9月のスタッフ研修・リーダー研修で、助成事業の目的等を共有した。 ・参加者へのアンケート調査により、数値で変化や課題を把握することができた。 ・事業により、多様な講師を招いたり、内容を充実させたイベントを、参加者の金銭的な負担を少なくして開催することができた。 ・事業2年目だからこそ見えてくる課題に（ROOMわで交流が深まりにくい理由、運営メンバー同士の連携についての難しさ）について、対策を考える必要性が出てきた。			【1】親子イベントについて・・・「参加して、新たな繋がりが増えた」という参加者の割合が、イベント内容により異なった。おゆずり会での繋がりを増やすのが、おゆずり品をもらったり譲ったりすることだけを目的に参加する方も多いため、難しい。子育て相談会の同時開催、人権擁護委員との連携により効果が見られる場面もあったため、継続する。 【2】ROOMのわについて・・・一年間を通して6回開催しても、回ごとの期間があいているため、参加できる回数が少なくなったり、新たに会う親子同士の会話が増えなかったりしてしまう。次年度は、2～3カ月の間に3回程度、昼食も含めて企画できる内容として、メンバー同士の交流の深まり方の違いを観察したい。 【3】公式LINEでの子育てサポートについて・・・登録者数は目標達成することができたが、活動について知らない（チラシ等は見ると興味を持たない）町内の子育て世代も一定数いる。プロの写真家とデザイナーにより新しく作成したリーフレットやSNSも最大限に活用し、参加者に口コミで広めてもらえるように依頼もし、さらなる周知に努めたい。			■活動成果のアピールポイント（自由記入）	
			この1年間の活動を通じて		当団体は、公式LINEの登録者数412名(38名増)、子育て相談会の実施、新たな活動リーフレット作成		
					を達成しました		
			■受益者の具体的な変化（自由記入）				
			・親子イベントに参加することで新たな繋がりが増え、親同士だけでなく、子ども同士、高齢者と子育て世代との交流ができ、それによって次のイベントでも安心した表情で参加する方が増えた。				